

□ 第1章 景観の現況と課題

1. 太田市の概況

(1) 位置と地勢

本市は、関東平野の北西、群馬県の南東部、東京から北西へ約 86km の距離に位置しています。

北関東自動車道が市北部を通り、関越自動車道へと接続しています。また、東武鉄道によって東京と接続しています。

本市は南に利根川、北に渡良瀬川という 2 つの豊かな水量を誇る河川に挟まれた地域にあり、市街地の北側にみどり豊かな金山、市域北部には八王子丘陵があります。金山と八王子丘陵を除くと、概ね平坦地で標高は 30m から 110m となっています。

市西部には、大間々扇状地があり、そこに降る雨水が約 20 箇所の湧水地となって現れています。河川がない扇状地と八王子丘陵との間の低地には、江戸時代につくられた岡登用水が貴重な水辺空間として残っています。

冬から春先にかけて、赤城山を越えてきた季節風（赤城おろし）が強く吹くため、市内の伝統的な農家住宅などには、北側と西側に防風林が植えられており、当地方の独特の雰囲気をかもし出しています。



太田市地図

（２）地域発展の歴史

①古代－古墳の造成

本市の歴史は古く、旧石器時代から既に金山、八王子丘陵の山麓に人々が居住していました。古墳時代には数多くの古墳がつくられ、国指定史跡である天神山古墳や女体山古墳のほか、寺山古墳、朝子塚古墳、鶴山古墳、塚廻り古墳群、西山古墳、二ツ山古墳などが点在しています。

奈良時代には、東山道^{とうさんどう}という当時の国道が東西に走り、市内には武蔵国^{むさしのくに}への分岐点である新田^{にったのうまや}駅が設けられました。市の北部には当時の役所である新田郡衙^{にったぐんが}（郡庁）が置かれました。

②中世－新田一族との縁

新田荘は、平安時代末期（12世紀末）、源義国の長男義重が左衛門督家政所^{さえもんのかみけまんどころ}から、上野国新田^{こうずけのくににったの}荘の荘官に任命されたことで成立しました。義重は荘園経営の拡大を図り、新田荘は大いに発展しました。そして、南北朝時代に活躍した新田義貞の没落後は、新田家と血縁関係にあった岩松氏が新田荘を支配しました。市内に点在する国指定史跡の新田荘遺跡は、新田一族に縁のある遺跡で、本市の歴史の趣を残す名所となっています。

岩松氏は、文明元年（1469年）に金山城を築城しました。金山城は、関東平野を見わたす東毛の中心に位置し、金山山頂^{みじょう}の実城を中心に4つの城郭を持つ城でした。その後、15世紀末には由良氏、16世紀の中頃からは後北条氏が支配し、後北条氏の滅亡まで、戦国大名の居城として、ふもとの町場とともに大いに発展しました。

③近世－日光例幣使道と太田宿

江戸時代の慶長18年（1613年）、徳川家康は徳川氏一族の繁栄と天下泰平、さらには先祖である新田義重の追善供養のための菩提寺として、大光院を建立しました。大光院に入山した呑竜上人は、「呑竜さま」と呼ばれ、多くの人々に慕われました。

また、江戸時代には、日光例幣使道と銅山街道^{あかがねかいどう}の2つの街道が本市を貫いていました。市域を東西に通る日光例幣使道は、朝廷から日光東照宮へ派遣される日光例幣使の一行が通る街道であり、市内には太田宿と木崎宿が設けられました。

本市西部を南北に通る銅山街道は、足尾で産出する銅を江戸に運ぶために整備された街道です。銅は、足尾から渡良瀬川に沿って南下し、市内の大原の宿場を経て、前島河岸などから利根川を下り、江戸の浅草まで送られました。

④現代－工業化と住宅団地の整備

大正時代から昭和20年にかけて中島飛行機製作所を中心とした多くの工場が市内につくられ、軍需工業都市として発達した本市は、太平洋戦争終結後、繊維産業や自動車産業などの平和産業を中核とする都市へと転換して復興を遂げました。

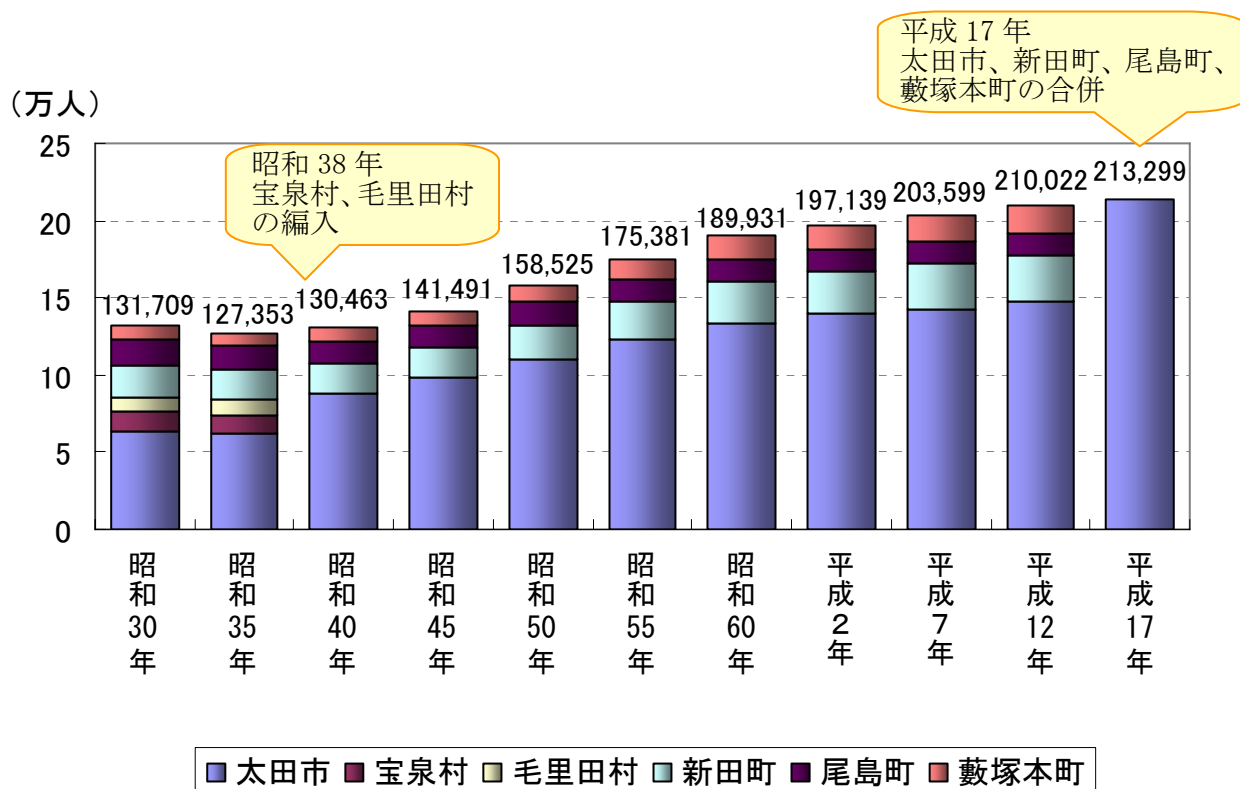
その後、昭和 35 年に首都圏整備法に基づく「首都圏市街地開発区域」に指定され、社会基盤の充実を図り、県下第一の、また北関東においても最大級の工業都市に成長しました。

工業団地の造成とそれに伴う企業の立地により流入人口が増加し、住宅の需要増に応じて住宅地整備が行われました。これまでに、東武鉄道の沿線を中心に、25 箇所の住宅団地の整備が行われました。

平成 17 年 3 月 28 年には、太田市、尾島町、新田町、藪塚本町が合併し、現在の太田市を形成しています。

(3) 人口の推移

本市の人口は、昭和 35 年以降、一貫して増加傾向にあります。平成 22 年 1 月 1 日時点の総人口は、22 万 63 人です。



※各年の合計は、現太田市域の人口を示す。昭和 30 年の太田市は強戸村、休泊村、矢場川村（一部）の合計

(国勢調査)

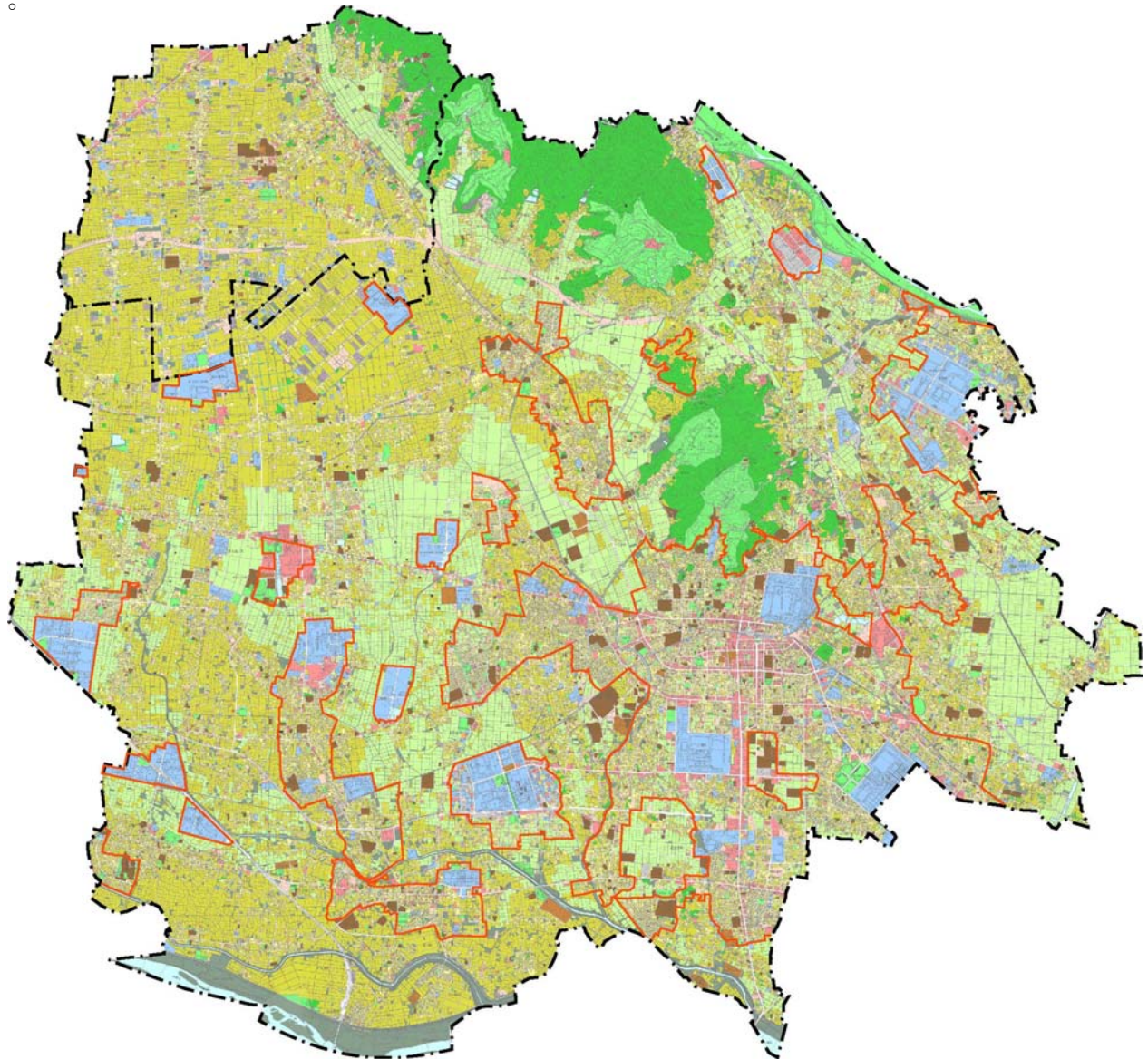
人口の推移

(4) 土地利用

本市は、東武鉄道太田駅を中心とした地域に商業系の土地利用が集積し、それを囲むように工業系及び住宅系の土地利用が広がっています。また、工業系の土地利用は市域全体に点在していることが特徴となっています。

太田駅を中心とした市街地の外側には水田や畑、緑地・丘陵が広がっています。

市域北東部には渡良瀬川があり、それに沿って公共緑地が見られます。また、市街地の北側に金山、市域北部には八王子丘陵といった大規模な山林がまとまっていることも特徴として挙げられます。



土地利用現況図
(都市計画基礎調査)

都市計画区域界 - - - - -		市街化区域界 ———	
農地（田）	公共公益施設用地	農地（畑）	文教厚生施設用地
山林	公的施設用地	水面	運輸施設用地
自然地	道路用地	住宅用地	農林漁業施設用地
併用住宅用地	公共空地	商業業務用地	その他の空地
工業用地	その他		